

私が取材
しました！



朝倉東高校2年生の西田彩英と申します。今回インターンシップで朝倉市役所の行政情報課で広報のお仕事の体験をしました。持丸浄水場で取材をし、2ページにまとめました。

朝倉市の水道水は、江川ダムに貯水された豊富な水が水源になっています。今回は、甘木・立石・福田・三奈木・美奈宜の杜地区などの約2万人に水道水を供給している、持丸浄水場を取材しました。

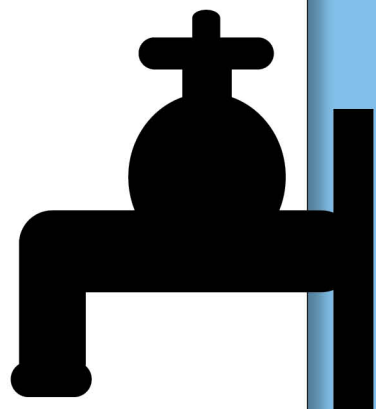
持丸浄水場では安川の女男石頭首工で取水した水を浄水しています。配水管は、水道水を供給している地域の道路の下にあり、総延長は151・05kmです。甘木から宮崎県くらいまでの長さがあるそうです。女男石頭首工からは、そのほか福岡市やキリンビールの工場にも水を送っていて、朝倉市民の生活だけでなく、市外や企業にも潤いを与えています。



▲水中のごみを天日で乾燥させたもの

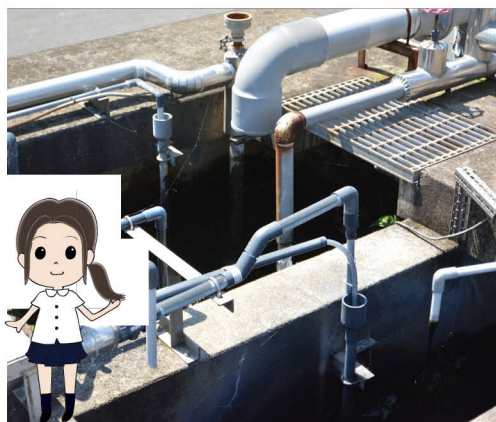
ろ過する

薬品沈澱池でも取りのぞけなかったごみは、砂や小石の層からできたろ過装置を通してすべてのごみを取りのぞきます。ろ過をしていると、よごれで砂の色が黒くなっています。色が黒くなると目詰まりしやすくなるので4日に1回程度掃除をするそうです。また、ろ過したあとに消毒剤を再度入れて、ばい菌が繁殖しないようにします。



飲料水はどのようにして作られる？

水のおいをとる



女男石頭首工からひいてきた水を受水槽で水の量を調整しながら、混和池にポンプで送水しています。混和池で、夏場の川のおいがついた原水に、活性炭を混ぜ合わせておいをとっていきます。そのほかにも、ポリ塩化アルミニウムや、次亜塩素ナトリウム(消毒剤)などの薬品も一緒にいれます。

毎日の水質検査



安全な水を供給するために、ここでは毎日の水温やpH値、水のにがり具合、におい、味、水に含まれる消毒剤の濃度や有機物の量、電気伝導率、アルカリ度が検査されています。

ごみをかためる

おいをとった水はフロック形成地へ送られます。ここでは、3つに分かれた水槽がそれぞれ違う速さで混ぜられていて、遅くなるにつれ、ごみや砂のかたまり(フロック)が大きくなっていきます。ポリ塩化アルミニウムが、水中のごみや砂を小さなかたまりにする役割を持っています。



ごみをとりのぞく



砂やごみをかためた水は、薬品沈澱池へいきます。そこには傾斜版があり、それで水中にあるごみ(フロック)を沈めます。ここで取りのぞかれたごみは、天日乾燥床というところで乾燥させて、園芸用の土などに再利用されるそうです。

水を送る

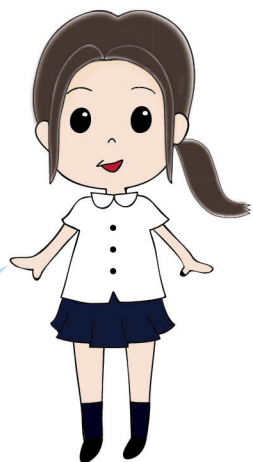
水を送りだすための配水池は、高いところに2つあります。持丸浄水場ではふたつの配水池は、管でつながっているのので片方に水が流れていくのを防ぐために、同じ水位になるように設計されています。



▲配水池に続く管



▲配水池の下には色々な機械が置いてありました。



持丸浄水場への取材で、私たちが使っている水がどのようにできているか、その過程を深く知ることができました。安全に飲める水をつくるためにいろんな検査をしたり、小石原川からは朝倉市内だけでなく、福岡市にも水を送ったりしているのを知りました。安全な水をつくってくださる人たちに感謝して、大切に使うつもりです。

今回のインターンシップを通して、普段できない取材や記事の作成・編集作業などをするのができて、貴重な体験になりました。中学生のときにした職場体験とは違い、今後の進路を考えるきっかけになることなので、緊張しましたが、職場の方々が親切にしてくださいました。有意義に過ごすことができました。